※「スポーツ科学」及び 学士力発展科目の「生涯スポーツ実践」「生命と病気」「ヘルスサイエンス」について、まとめた。

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の④～①のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 4　シラバスに沿って授業を行えた。

①:5（26%）　②:13（68%）　③:1（5%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:8（42%）　②:58（20%）　③:0（7%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:7（37%）　②:11（58%）　③:1（5%）　④:0　（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:7（37%）　②:10（53%）　③:2（11%）　④:0（0%）　未回答: 0（0%）

設問 8　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:6（32%）　②:13（68%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 9　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:7（37%）　②:12（63%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:7（37%）　②:12（63%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 11　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:0（0%）　②:7（37%）　③:3（16%）　④:9（47%）　未回答:0（0%）

設問 12　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:8（42%）　②:9（47%）　③:1（5%）　④:0（0%）　未回答:1（5%）

設問 13　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:6（32%）　②:11（58%）　③:1（5%）　④:0（0%）　未回答:1（5%）

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　1（5%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　5（26%）

③他大学の FD 活動の視察：　0（0%）

④その他：　4（21%）

・・・「テニス指導法に関する勉強」、「教えるべきテニス技術について自己研鑽を積んだ。」3 クラス

未回答：　9（47%）

設問 15　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　4（21%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　6（32%）

③他大学の FD 活動の視察：　1（5%）

④その他：　4（21%）

・・・「引き続き指導法を勉強すると共に自己のスキル向上を図る」、

「プレーを改善する言葉がけを考究する。」3 クラス

未回答：　4（21%）

設問 16　前年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　　回答 8 クラス（順不同）：

[1] 前年度の授業に対する学生の評価は高かったが、さらに充実するため個別指導を多く取り入れた。・・・3 クラス

[2] 一人一人の技能に応じて楽しめるゲームの工夫。・・・2 クラス

[3] 学生による授業評価は概ね高評価であったため、特段の改善点を設けなかった。

[4] 前期の後半の屋外活動を止めて、前半（４月～6 月）に屋外での活動を組み入れた。また、後半の室内活動は、これまで以上に熱中症対策を行い、１回の休憩を 2 回に増やして水分補給を促した。

[5] 受講生の人数を、前期（生涯スポーツ実践Ⅱ）と後期（本授業）で調整したことにより、適正な人数でそれぞれの授業を実施することができた。

インリーダーのそれぞれも、前期の経験を生かして授業の進め方等を工夫することができた。

設問 17　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　9 クラス（順不同）

[1] 本年度も概ね授業到達目標が達成でき、学生の満足度も高かったことから、今後もこれを維持・発展させて行きたい。

・・・3 クラス

[2] テニスでは初心者と経験者の技術差が大きく、分離する形の授業となったが、経験者に指導を任せるなど、両者の融合を心がけたい。

[3] 技能の習得を目指して授業をしたが，受講生のスポーツ経験の程度の差が大きく，習得状況に大きな個人差が出てしまった。技能下位者のレベルを上げるための手だてを検討することが今後の課題である。

[4] 今年度も「生涯スポーツ実践Ⅰ」と合同で、イン・リーダーを活用した授業づくりを実施したが、イン・リーダーに対

し、事前の打合せができず、その役割や授業のねらい等を理解しないままのイン・リーダーもおり、それが一部の受講生の満足度の低さにつながったと思われる。ただし、次年度からは担当教員が増えるので、イン・リーダーの活用はない。

[5] 教育文化学部の学生に実施していた方法（前時に次時の課題を簡単に提出してもらい、本時にその課題を解決できたか、自己評価する）を、初めて指導する看護学科の 2 年生にも実施した。はじめの頃は、それぞれが自分の課題を設定する方法に慣れない学生もいたが、途中からは全員がスムーズに活動ができるようになった。

次年度は、看護学科の学生に教職必修科目という意識が低いので、第 1 回の授業で、そこをしっかり押さえてから授業を進めたい。

[6] 学生に率先して動ける年齢ではないので、教員に代わって演示をしてくれる TA を個人的にお願いして、学生のモチベーションが下がらない工夫をしている。

[7] 評価点：　保健・医学領域の講義内容が充実した。

Ⅰ　日本赤十字社とのタイアップでの特別講義を取り入れた。これはおそらく基礎教育課程では、本学でも初めてのケースではないか。

Ⅱ　救急蘇生技術に関して、座学のみでなく実習形式を取り入れた。

Ⅲ　ミニレポートについて、優れた記述については後日の講義で紹介するなどの学習意欲向上への動機付けに寄与する取り組みに努めた。

設問 18　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。　　提出ファイル：　なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画の関連で「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19　授業の中で「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　13（68%）　　②いいえ：2（11%）　　未回答：4（21%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20　下記のどの点を重視しましたか？**（複数回答可）**

①聞いて理解する：　4（21%）

②読んで理解する：　0（0%）

③自分の考えをまとめて話す：　2（11%）

④自分の考えを文章にまとめる：　0（0%）

⑤討論する：　4（21%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：　1（5%）

⑦その他：　5（26%）

・・・「グループワークをさせる」3 クラス、「協調性を重視」、「活動内容を自分たちで決めさせる」

未回答：　5（26%）

設問 21　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　8 クラス（順不同）

[1] 活動内容を各グループ別に話し合いで決定させる。リーダーシップやフォロアーシップ発揮の機会を増やした。

・・・3 クラス

[2] 仲間以外の人と話す活動を積極的に取り入れた。

[3] 会話が必須のスロージョギングの際に、できるだけ初めてのペアーになるように指示した（毎回、友達になったと学生には好評）。その際に、会話が苦手な学生もいるので、毎回、異なるテーマを与えている。例えば、出身高校の体育の授業について、毎日の食事で気をつけていること、これまでの運動歴等々）。

[4] 上記設問 20 に書いたとおり、その時間の活動内容を自分たちで決めさせるようにしているが、それが適切でない場合はなぜ適切でないかについて説明し、意見を聴取した上で、教員も交えた活動修正案を作成するようにしている。

[5] グループでの活動が主であったので，グループ内での相互の教え合い活動や，経験者のアドバイなどが活発に行えるように，雰囲気づくりや時間の確保などに配慮した。また，団体戦の計画・運営を学生に任せることで，自然にコミュニケーションをとる場面が生起するように仕組んだ。

[6]　Ⅰ　心肺蘇生技術の講義時に、3 名程度のチームを無作為に作り、チームで蘇生を行う実習形式の講義を行った。目前の生命危機が迫る患者を、いかに周囲と協力・強調してレスキューするのか、というコミュニケーション能力が大きく問われるので、協調性を重視したコミュニケーション能力の育成に寄与すると思われる。

Ⅱ　こども～青年期のこころの発達の講義、特に mind　theory についての講義内容を通じて、コミュニケーションのスキルアップに寄与するよう工夫した。

D（問 22～25）：中期目標・中期計画の関連で「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22　授業の中で「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　3（16%）　　②いいえ：　11（58%）　　未回答：　5（26%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23　授業中で取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　3（16%）　②６～10 回：　0（0%）　③11～15 回：　0（0%）　未回答：　16（84%）

設問 24　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　0（0%）　②政治・経済・産業：　0（0%）　③自然環境・フィールド体験：　0（0%）

④その他：　1　（5%）・・・「宮崎の医療」　未回答:　18（95%）

設問 25　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　0 クラス